

- 行動分析でスキルアップ「もう一人の自分をつくる」…… 2
- 今、生かしたい「地域の課題から組み立てる社会学習」
—2つの小学校の60年前の取り組み—…… 6
- 「エラーを防ぐ教育のコツ」「スイガール東大生に勝つ」…… 7
- 随想「澤選手の言葉」…… 8

巻頭言 **84歳の小学生** —映画になった実話—

能力開発工学センター理事 小澤 秀子

映画はしばしば大きな感動を残す。これもそうした映画の一つ。話の主は、アフリカ・ケニアのキマニ・マルゲ、苦勞の末にやっと小学生になった84歳のおじいさん。「最高齢小学生」としてギネスブックに登録され、卒業後国連で教育の必要性を訴えるスピーチをしたことで世界にその名が知られる。映画は、この実話をイギリスBBCが再現した「おじいさんと草原の小学校」<http://84-guinness.com/>

1920年にイギリスの植民地となったケニアでは、1942年自由を求める「マウマウ運動」が始まり、独立への長く険しい歩みが始まる。独立を勝ち得て共和国になるのは、1963年12月12日。この間運動に参加した何千ものケニア人が投獄され、多くのマウマウ指導者が命を落す。マウマウ団の戦士として戦ったマルゲも捕らえられ、拷問を受け、目の前で妻や子供が殺される。

二度とこうした悲劇を起こしたくない、貧乏で読み書きのできないマルゲが、独立後熱望したのは「学ぶこと」だった。悲劇を防ぐためには「読み書き」を学ばねばならない。ケニア政府は、2003年無償教育制度をスタートさせ、生徒を募集する。マルゲは、早速小学校に向かう。しかし、学校に入れるのは子供だけという規則、「大人は受け付けられません」と門は閉ざされる。しかし、マルゲはどうしても学ばなければならない。繰り返される門前払いにも怯まず毎日毎日通い続ける。

やがてこの思いが校長のジェーンに届き、彼女のアイディアで校長の助手として採用される。やっと学校に通えるようになったマルゲ。校長に協力して学校が直面する困難を解決し、子供たちとも仲よくなって学校の人気者になる。84歳のマルゲは、「まだ終わらない」と学び続ける。あきらめない強さ。学ぶことへの熱情。その勢いは子供や他の教師たちにも伝わり、学校全体が生き生きと動き出す。

学校が、こんな風に強く「学びたい」という思いをもって学ぶ生徒、それを導く教師が共に活動する場となれば、どんなに充実感に満たされるだろうか。学ぶこと、導くことに集中すれば、いじめたり校則で取り締まるという暇なんかなくなるだろう。現在の学校をこんな風にできないのだろうか。本当にやり方はないのか。つきつめる前にあきらめてはいないだろうか。

考える力、想定外の場に直面して行動を生み出せる力、それが必要なことは、今回の震災でも身にしてみた。津波で明暗をわけた二つの小学校の対応。これなども小学生に検討してもらいたい。ほかにも数え切れない教訓を残した。それらを研究してこれからに活かす、そんな課題が沢山ある。そうした活動の中から学ばなければならないこと、学びたいことが子供たちに実感されていくに違いない。

いま人類が直面している課題は、大震災だけではない。世界に目をむければ無数の難題がある。それらを自らの課題とすること、それを解決するために何を学ばなければならないかを実感すること、そのための導きこそ、大人の、とりわけ教育に関わるものの責任だと思う。

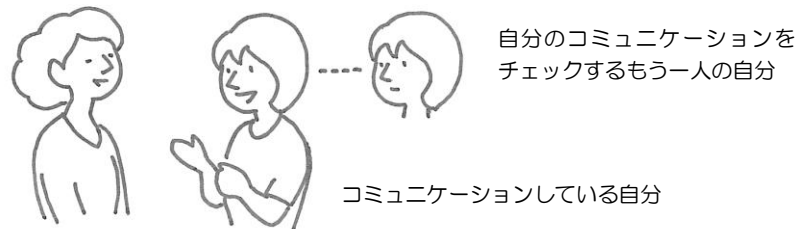
★行動分析でスキルアップ — コミュニケーション行動の場合

もう一人の自分をつくる

研究開発部

コミュニケーションは、毎日毎日行っている行動であるにもかかわらず、「苦手だ」と思っている人が実に多い。行動の改善は、自分の欠点を自覚しそれを修正していくことによって成立する。しかし、コミュニケーションは、形のない言葉で成り立っており、すぐに消えていくものなので、自分の欠点を自覚しにくい。加えて自分の都合や感情が伴う行動であるため、自分の欠点を自覚する前に、相手や状況のせいにしてしまいがちになる。修正できないまま、苦手意識ばかりがつのっていく。

しかし、毎日行っているということは、それだけ修正のチャンスもあるということ。そこでお勧めしたいのが、自分のコミュニケーションをチェックするもう一人の自分、客観的な目を持つもう一人の自分をつくることである。



1. 行動分析で「もう一人の自分」をつくる

1-1 成立要素の洗い出しと、客観的姿勢の育成

- ①良いコミュニケーション行動を成立させる要素・条件を洗い出す
- ②自分の行動を客観的に見る姿勢をつくる

行動分析の目的は①②の2つである。分析は、良い事例も悪い事例も対象にする。良い事例、悪い事例のどちらかだけでは、ポイントは見えてこない。良い事例と悪い事例を比較することによって、良いコミュニケーションのポイントがはっきりしてくる。そしてこの事例を分析する過程で、行動を客観的に見る姿勢ができていく。

1-2 コミュニケーション行動の特質をつかむ

●会話は「1 対応」の「積み重ね」

コミュニケーションは人数もその形態も様々な形で行われるが、基本は2人の会話行動、そしてその中における2人の1往復の対応のあり方が基礎になる。1 対応、1 対応における行動の積み重ねが、コミュニケーション行動全体を成立させ、その1 対応の中での少しずつのずれが、良い方向も、悪い方向も作り出していく。2つの事例は、一方の言葉に対する他方の対応のしかたの違いがよくわかるように、1 対応ずつに区切ってある。

コミュニケーション行動の「行動分析」は、まず、この1 対応ずつに区切るということから始まる。

●「対応する姿勢」の積み重ねが生み出す展開（良くも、悪くも）

次ページは練習用の事例。練習用なので、良い例と悪い例の条件を同じにしてある。スタート時の条件は同じ、A が B に旅行の相談をしようとするところから始まる。B が持ちかけた旅行計画に応じ日程を考えホテルを探した A は、3人で泊まれるホテルがあるので旅費節約のためにもう一人誘うことを、B に相談しようとしている。

対応の積みかさねの結果、2つは全く異なる結末となる。事例1では、A は相談したかったことも言わずに相手に要求を突き付けて終わってしまうが、事例2では、双方納得の結果となる。ざっと見たところでは、A の意図や

《事例1》	
	A: 旅行の話だけど、そろそろ日程決めない? 私いいホテル見つけたんで、相談したいんだけど。
①	B: え、もうホテル決めるの? A: うん、××はみんなの憧れの地でしょ、早く手を打たなくちゃ。日取りは7月の最終週でどう?。8月後半はゼミの調査旅行があるし、レポートもまとめなくちゃならないし……。
②	B: それなんだけどね。(口ごもる) A: 一応プランを全部話させてくれない。相談っていうのは、そのホテルのことなの。
③	B: ちょっとまって、その旅行の話なんだけど、母がね。 A: え、反対なの? 今更困るわ。まさか、行かないって言うんじゃないわよね。この話、もとはB子から始まったんだし。私計画立てるのに相当時間使ってるのよ。
④	B: ええ、わかってるわ。でも、ちょっと聞いてくれない? 実は母が、××なら自分と行って欲しくて言い出してね。このコースは前から行きたかった所だからって… A: ちょっと待ってよ。それで、私の方を振るって言うわけ? それはないんじゃないの。
⑤	B: そう決めたくはないわ。でも母の気持ちもあるね。 A: お母さんの気持ち? じゃあ、私の気持ちはどうしてくれるの? 大体こっちが先口じゃないの。お母さんずるいわ。
⑥	B: ずるって、そんな言い方はないんじゃないの。母はずっと働き詰めで、今年は勤続30年で特別休暇がとれるの。めったにないチャンスなのよ。 A: でも、それなら私たちだって同じよ。私たち就活始まったら旅行には行かないじゃない。卒論だってあるし。これが学生最後の旅行になるかもしれないのよ。 お母さんは、自分のお友達といらっしやったらいいじゃないの。ちゃんとお断りしてよ。いい? じゃ、話がついたら連絡してね。
⑦	B: ………



《事例2》	
	A: 旅行の話だけど、そろそろ日程決めない? 私いいホテル見つけたんで、相談したいんだけど。
①	B: え、もうホテル決めるの? A: うん、××はみんなの憧れの地でしょ、早く手を打った方がいいと思って。どう?
②	B: それなんだけどね。(口ごもる) A: ん? もしかして行かれなくなっちゃった? 何か予定が入ったとか?
③	B: ううん、そうじゃないんだけど、母がね…… A: え、お母さんが? ご病気のなの?
④	B: そうじゃなくて、実は母が、××なら自分と行って欲しくて言い出してね。このコースは前から行きたかった所だからって… A: 私と一緒に行くってことお話ししてないの?
⑤	B: 話したわ。でも、××には特別な思いがあってね。父と旅行する計画立ててたらしいんだけど、父が事故で急に亡くなってね。(間) 私が行って話したら、自分と行って欲しくないかって言い出して。一人では寂しくて行く気になれなかったらしいの。 A: それで迷ってるのね、どっちと行くかって。
⑥	B: うん、A子と行きたいんだけど母の気持ちもね。 A: そうね、親一人子一人ですもの。
⑦	B: ええ、母ががんばってくれたから、学校続けられたのでね。 A: でも私たちだって就活始まったら行けないし、卒論あるし。B子と行く最後のチャンスかもしれないし、せっかく計画立てたし。はいそうですかって言えないわ。(間) ねえ、お母さんも今年がいいの?
⑧	B: 今年は勤続30年で長く休みがとれるらしいの。めったにないチャンスなの。 A: そうか、勤続30年ね…。
⑨	B: 父が亡くなってからずっと働き詰めで一緒に旅行する友達もいなくてね。私だけ旅行いきますって言えなくなっちゃって。ねえ A子ならどうする? A: そうねえ。どうするかな… (間) ねえ、いっそ、一緒に行くって言うのはどうかしら?
⑩	B: え? A: さっき私ホテル調べてみたって言ったでしょ。××巡りにはすごく地の利がいいホテルが見つかったね。ベッド3つ入れられる部屋があるの。値段安くなるし。だからもう一人誘う相談しようと思ってたの。 ねえ、お母さん、どうおっしゃるかしら。
⑪	B: 願ったり、叶ったりよ。きっと喜ぶわ。

Bの事情など、話の内容そのものはそう大してちがっているわけではない。ちがうのは、1対応の中でのそれぞれの相手に対する姿勢である。その少しの違いが積み重なって、感情のずれ、そして展開の違いを生み出したのである。つぎは、その1対応の中におけるAとBの行動を一つ一つ見ていく。

1-3 「1対応」の中での行動の姿勢を分析する

1対応の中におけるAとBの行動（言葉）を、次のような視点で見ていく。2人がそれぞれ、相手の言葉から「何を読み取り」「何を引出し」「何を受けとめて」いるか。また相手に「何を伝えているか」を分析していく。

たとえば事例1の②。Bが「それなんだけど」と言って口ごもる。しかし、AはBに何も質問もせず、自分の計画を話すことを優先する。つまり、Bの言葉の背景にあるものは読み取っていないとわかる。

一方、事例2のAの対応からはBに何か事情があることを読み取っていることがわかる。Bが応えやすいような聞き方をしていることから、話しにくい内容があると読み取って、そのための配慮をしていることが感じられる。

事例1-②	B：それなんだけどね。（口ごもる） A：一応プランを全部話させてくれない。相談っていうのは、そのホテルのことなの。
事例2-②	B：それなんだけどね。（口ごもる） A：ん？ もしかして行かれなくなっちゃった？ 何か予定が入ったとか？

こうして、じっくり1対応の中におけるAとBの行動（言葉）を分析していくと、事例1と2では、Aの姿勢が全く違うことがわかる。事例1ではAは、Bの反応を気に留めず一方的に自分の言いたいことを伝える。そして、Bの事情を受けとめることをせず、最後まで自分の考えや思いを強く主張して説得しようとしている。Bは、Aの剣幕に押され自分の事情や思いをはっきり説明しきれないのである。その結果、Bの事情も心情も引き出すことができずに、要求だけ突きつけてAは去ることになる。

それに対して事例2では、AはBの微妙な反応から、その背景や心情をくみ取ろうとしている。それを聞き出すべく絶えず質問をしている。(①②③④) そのことによって、Bは自分の事情や心情などを語るが、Aはそれをまた受けとめ、そのことを言葉で表現する。(⑤⑥⑧) しかし、自分の考えや思いもしっかり伝える。(④⑦) そして、その状況が変えられないか探る。(⑦) そして、Aと母のどちらの思いも切ることができずに悩むBに応えるべく考えた挙句、もともとメンバーを一人増やさないとこの相談をするつもりだったことに思い至り、Bの母を含めた3人旅を提案(⑨)、旅費の節約という目的も達成する。

1-4 良いコミュニケーションの成立要素

1対応の中の2人の行動を整理すると、基本的には次のような要素から成立していることがわかる。多くの事例を分析すると、良いコミュニケーションの成立は、このうちの聞き手としての姿勢が特に重要であることがわかる。相手の言葉の背景にある事情や心情を引き出し、それを受けとめたことを表現するということである。聞き手としてそれだけの姿勢を持った者は、話し手としてもそれを踏まえた話し方になるので、相手も話の内容を受けとめる姿勢になっていくのである。

★聞き手としての行動要素

- ① 相手の事情・心情・考えの読み取り、引出し（質問）
- ② 相手の事情・心情・考えの受けとめ（表現）

★話し手としての行動要素

- ① 相手に自分の事情・心情・考えを伝える
- ② 相手の受けとめの様子の読み取り、引出し（質問）

1-5 会話は、どの時点からでも修復できる

1対応の中では、お互いに聞き手であり話し手であるので、この4つの要素がすべてが存在すると考えてよい。どちらか一方、あるいは双方に、この要素の中の何か（特に聞き手としての行動要素）が欠けていると、だんだんに展開が悪くなっていく。しかし、そのことに気がつけば展開は改善することができる。

事例 1 の会話で、修復を試みてみよう。

③	B: ちょっと待って、その旅行の話なんだけど、母がね。 A: え、反対なの? 今更困るわ。まさか、行かないっていうんじゃないわよね。この話、もとはB子から始まったんだし。私計画立てるのに相当時間使ってるのよ。
④	B: ええ、わかってるわ。でも、ちょっと聞いてくれない? 実は母が、〇〇なら自分と行って欲って言い出してね。このコースは前から行きたかった所だからって… A: ちょっと待ってよ。それで、私の方を振るっていうわけ? それはないんじゃないの。
⑤	B: そう決めたくわけじゃないわ。でも母の気持ちもあってね。 A: お母さんの気持ち? じゃあ、私の気持ちはどうしてくれるの? 大体こっちが先口じゃないの。お母さんずるいわ。
⑥	B: ずるって、そんな言い方はないんじゃないの。母はずっと働き詰めで、今年は勤続30年で特別休暇がとれるの。めったにないチャンスなのよ。 A: でも、それなら私たちだって同じよ。私たち就活始まったら旅行には行かないじゃない。卒論だってあるし。これが学生最後の旅行になるかもしれないのよ。お母さんは、自分のお友達といらっしゃったらいじゃないの。ちゃんとお断りしてよ。いい? じゃ、話がついたら連絡してね。

まずBの立場から。④の2つ目の言葉「でも、ちょっと聞いてくれない」は自分の言いたいことを優先していて、Aの事情心情を十分には受けとめていないし、自分の気持ちもきちんと伝えてはいない。そこを修正する。

B: ええ、わかってるわ。私だってもちろんA子と一緒にいきたいと思ってる。だから困ってるの。

それから自分の事情を話す。そうすればAも話を聞く気になるし、あるいは、「どういうこと?」と自分から聞いてくることも考えられる。⑤の段階であっても、⑥の段階になっても同様のことが言える。

では、Aの場合はどうか。⑤の段階では「お母さんの気持ち?」のあと、「どういうこと?」とひとこと聞けば展開は変わる。⑥の最終段階の自分の気持ちを主張したあとでさえ、要求を突きつける前にB子の事情や心情を詳しく聞いていたら、また展開は変わっていったらう。そのほかにも、客観的な立場で分析してみると、対応のしかたはいろいろ考えることができる。

2. 自分のコミュニケーションを‘もう一人の自分’がチェックする

1-4で示した「4つの行動要素の視点」と、「客観的姿勢」をもつこと、これがコミュニケーション上達の鍵である。コミュニケーションは「1対応」「1対応」の積み重ねである。だから、4つの視点と客観的姿勢があればいつからでも、修正・修復できる。

「1対応」の中で、きちんと相手の事情・心情を受けとめ、それをしっかり表現して相手に伝える。自分の言いたいことは、その上で言う。毎日のコミュニケーションの中で1回でも2回でも、このポイントを意識して、自分の会話を客観的に見てみる。そして、会話の途中で気がついたらその時点で、直す。その積み重ねが、良いコミュニケーションへの道となる。



《活動報告》

今、生かしたい！ “地域の課題から組み立てる社会学習”

— 2つの小学校の60年前の取り組み —

茨城県常総市水海道小学校と富山県滑川市北加積小学校、この二つの学校が戦後まもなくの頃からほぼ20年の長きにわたって取り組んだ「地域の課題から組み立てる社会学習」。2008年以来、保存資料調査や元教師の方々への聞き取り調査を行ってきたが、このたびその中間報告として下記のレポートにまとめ刊行した。

JADEC研究レポート2013

矢口新の教育思想と実践の研究—地域を建設する人間育成のあり方を探る

I 水海道小学校保存資料調査 II 北加積小学校元教師へのインタビュー調査



協力した研究者と熱心に討議する教師たち（1950年頃）

●目標は「実践人の育成」

—地域の課題を捉える視点、その解決のための視点を育てる—

戦後、国史・地理・修身に代わって登場したのが社会科。社会科をいかなるものにするか、全国の学校でそのカリキュラム構成が模索され実践が試みられたが、それは生やさしいことではなくやがて「火が消えるように収束していった」（茨城県教育研究所伊藤寅八郎/1953）という。

しかし、そんな中で水海道、北加積の2つの小学校では、地域の課題から組み立てる社会学習のカリキュラムのあり方を研究し、またその具体的な学習活動の方法に取組み続けた。教師が教え込む受動的な学習ではなく、子どもたちの主体的な活動を通して、自ら考え行動する力を育てる「実践人の育成」を目標とした。自分のペースで、自分の五感を通して、個々の子どもが思考を積み上げていく学習を工夫した。整理されたことを覚える学習ではなく、みずから考えて法則を見出していく学習であり、教科書をはじめとする教材はそのための材料であるとした。

水海道小は首都圏に近い町、北加積は稲作中心の農村と違いはあっても、それぞれの現実の問題から出発するところは同じ。教師たちは地域の問題を調査し、現実の実態を示す資料を教材に作り上げた。昭和32年(1957)北加積小で開催された社会科教育研究全国大会の取材をした時事通信社「内外教育版」886号は、5年の単元「工業の振興」を例に挙げ、地域の実態をしめす資料、他地域との比較材料、産業が成立する条件を示す資料、産業の方向を示す材料の豊富さに驚きの報告をしている。

●目の前の現実に対応する力を育てる—自治活動

また水海道小では、具体的な現実的な行動の場の中で、子どもたちの力を育てた。それを担ったのは自治活動。10の自治活動の部と、それらを統括し全校集会の準備をする事務局があり、5年6年は必ずそのどれかに入って活動をした。放送部では子どもたちに番組作りが任せられ、準備や放送機器の操作にいたるまでの一切を子どもたちが行った。独立採算性の会社組織2社が競った新聞部や、学用品など学校生活に必要な小物類の仕入れから販売までを児童が担当した購買部、図書館の本の貸し出しや整理を行う図書部、保健活動や応急処置を行う保健部、花壇の管理や校舎の美化を担当する整備部など、そのそれぞれで子どもたちの活動は驚くほど自主的に行われ、学校における日常の活動や様々な行事は、その運営のかなりの部分を児童が担っていたという。（レポート2013-2で紹介）

子どもたちの気持ちは、いかに、皆のために活動するかということに向かっており、協力し合って学校生活を作り上げたといってよい。共同する中で共同する姿勢を育てたのである。

●われわれの目指すべきもの

地域の再生が日本の課題になっている。東日本大震災の被災地は、復興どころか復旧も進んでいない。地域の課題が見えない。また課題が見えても、利害が対立し方向が定められないという状況に、われわれはどう行動すべきか。2つの小学校で教師と子どもたちが取り組んだこの実践は、われわれに方向を示してくれている。

《活動報告》

エラーを防ぐための教育のコツ

研究開発部長 矢口哲郎

(株)技術協会発行『ヒューマンエラー対策事例集』に、これまで手掛けてきた主として生産現場で働く人のための教育をまとめて、「エラーを防ぐための教育のコツ」を執筆しました。以下はその内容紹介。

- 学習というのは、できないことができるようになること。脳を中心とした、人間の学習のメカニズムを捉えて、それを土台に教育のあり方を考えていくことが重要であること。そのポイントは
 - (1) 人間は五感を働かせることによって、脳の中に神経細胞のつながり(回路)ができ、新しいことができるようになる
 - (2) 目標とする感覚を分解して、段階的に経験させる
 - (3) 面白いと感じる経験をさせて、意欲を起こさせ、自分で考え、自分で突破させるようにする
 - (4) 一人一人の学習者の経験に合わせて学習できるような教育を設計する
- 製造現場の新人作業員、オペレータの教育を中心に教育の例を紹介
 - (1) 教育の目標は行動力、判断力
 - (2) 製造プロセスの原理、装置の仕組みをつかんで、製品・製造に対して自信を持つ教育
 - (3) 実際の製造プロセス・システムの解明を材料に、現場を教材にして状態・仕組みを調べ、システムに変化を与えてデータをとる、事を教育とする
 - (4) 学習のしかたの指導、教育・訓練の形
- エラーはなぜ起こる？ エラーを防ぐ教育をどう構成するか
脳の働きから土台にしたエラー行動の分析と、エラーを防ぐ教育のポイント。



Antenna



スイガール、東大生に勝つ

「スイエンサー」というTV番組がある。NHK 教育テレビで週1回放送されている30分番組だ。TVウォッチャーを自認する筆者のランキングはかなり高い。ややバラエティ色が強いのが気になるが、理論からではなく具体の事実や試行錯誤から入るといふ(いわゆる科学番組とは全く逆の)アプローチが気に入っている。

昨年秋ごろからの企画は、スイガールと呼ばれる中高生からなるこの番組の科学探究スタッフと、超一流大学の理系学生とによる課題挑戦の対決。例えば、決められた枚数の紙で橋を作り、それが何キロまでの荷物を支えられるか、といったような課題が与えられ、3~4人1グループずつが制限時間の中でそれに取り組む。スイガールは中高生であるため、課題挑戦の前に実験が1度だけ許される。その結果を基にして、最初の案を修正して取り組むことが許されるのである。それに対し大学生たち(院生が含まれるときもあり)は、それまでに学習してきた理論のみで対抗する。グループ内での話し合いでは、〇〇に対する応力だの、××理論だのが飛び交う。

制限時間いっぱいになった時点で、2チームが決戦の場に登場し、それぞれの案で競う。そしてその結果、スイガールたちは東大生に2勝1敗、京大生に1勝、北大生には敗れはしたがほとんど差のない戦いを繰り広げているのである。(この闘いはまだ続らしい。)

「スイエンサー」というタイトルは、科学を理路整然と学ぶのではなく、という意味が込められているのだと思うが、それまでの経験や、実験の結果の現象を整理して、その中から法則を見つけるというのが、本来の科学であって、おなじNHKで放映されている学校向けの理科番組より、むしろこちらの方が王道ではないかと思う。その意味で私は、これは、大学生とスイガールの闘いというより、机上の理論に経験の整理が勝ったということではないかと考えている。

(S)

★6 ページで紹介している研究レポートをご希望の方は、JADEC 事務局(8頁に記載)までご連絡ください。



研究開発部 矢口みどり

オリンピック招致で盛り上がる東京都とスポーツ界。その一方で体罰や暴力的指導が大きな問題となっている。以前、オリンピック連覇を期待された選手が無名の新人に敗れ、相手を祝福するどころか顔をそむけて試合場を去る場面を見た。その際、競技の目標は勝つことだけなのかと残念に思った記憶がある。その競技が柔道であったという事実から考えると、今回の柔道連盟の不祥事は起こるべくして起きたのだと感じた。

何を目標としてスポーツをするのか。スポーツで何を育てるのか、そこに思いが行ったとき、私が思い出したのは、澤穂希選手が、ロンドンオリンピックで銀メダルを取った直後のインタビューに答えた言葉だ。

「五輪での金メダルを目標に戦ってきました。残念ながら届かなかったですけど」に続けたその言葉は、「最高の仲間と、最高の舞台で、最高の相手と戦えてよかったです。」仲間と同じように、戦う相手にも最大限の敬意を払う、本当のスポーツマン精神を見た。

2011年夏のW杯決勝戦でなでしこジャパンは、米国を初めて撃破した。米国はそのリベンジを果たすべく、なでしこを徹底研究。エース、アビー・ワンバック選手試合前のインタビューで、「日本に勝つためにやってきた」と語っていた。澤は決勝戦前日の朝、選手村の宿舎棟を出発する直前に偶然に同選手と遭遇。「お互い楽しみだね」とエールを交換、握手を交わしたという。

ワンバック選手は、澤が米ワシントンで選手生活を送った09、10年、チームメイトでありライバルだった。澤は、昨年3月のアルガルベ杯の米国戦当日朝、良性発作性頭位めまい症を発症。選手生命の危機に立たされた。すると発症から16日後、3月21日、INAC神戸のキャンプ地・鹿児島にワンバック選手が電撃訪問。まだウオーキングぐらいしかできない澤に、ワンバック選手は「絶対に克服できる。また五輪で戦おう。でも次はやられないよ」と励ましたという。

また澤の後継と目されている宮間選手と、米国のゴールキーパー、ソロ選手は試合目前に「お互いに楽しもう」とメールを交わしている。W杯決勝の後、宮間選手が日本チームの歓喜の輪に入る前に、敗れた米国チームのもとに行き健闘を讃えたそのことをソロ選手は、母国のニュースショーで紹介し「日本は尊敬すべき国」と語った。

恵まれない環境の中、ただ「サッカーが好き」「サッカーする仲間を増やしたい」という気持ちからサッカーに打ち込んできたなでしこたち。米国チームも決して恵まれた環境ではない。米国ではサッカーの人気はいま一つで、スポンサーが撤退し現在女子サッカーリーグは休眠中（2013年再開の予定）。そんな2つのチームが、相手に対する尊敬の気持ちをもってぶつかり合った決勝戦だった。

オリンピックを目前にして、なでしこジャパンの調子はなかなか上がらず、5月の親善試合では米国には4-0と完敗、格下のフランスにも2-1で負けた。しかし、ワンバック選手の言葉通り澤も復活し、本番では1戦、1戦、修正し調子を上げて、ついに決勝戦に。前半、後半のそれぞれ立ち上がり1点ずつアメリカのスピードに負けて失いはしたが、本来のパスサッカーを展開、1点を返した後は怒涛の攻撃でアメリカを圧倒。決めきれずに惜敗したが、その内容は実に素晴らしかった。試合直後の涙と、表彰式でのあふれんばかりの笑顔も忘れられない。

《編集後記》

60年前の2つの学校の取り組みから、私たちが学ぶものは多い。自分たちの学校を自分たちの手で楽しく快適なものにしていく。上級生が運営してくれる映画会、運動会、学校新聞、購買部、学校花壇・・・楽しく快適な学校生活が、学校に愛着をもち、世話してくれる上級生に感謝の気持ちを抱く。そしていつかは自分たちがやるんだという自覚が育つ。人間の心というものはそうして育つものだ。(m)

一般財団法人能力開発工学センター

〒203-0042 東京都東久留米市八幡町 1-1-12
TEL:042-473-1261/FAX:042-473-1226
<http://www.jadec.or.jp/>
<http://jadec.jp/>(資料館)
E-mail: info@jadec.or.jp